

旭山丘陵の地盤災害 -2003年7月26日宮城県北部の地震-

＜吉岡敏和・石山達也・宮下由香里・堀川晴央・宮地良典・木村克己＞



1. 河南町北村(久米田付近)で発生した地すべりの全景。滑落した堆積物は細粒物を中心に、顕著な岩塊等は見られない。堆積物は谷を横切って反対側の斜面まで達している。



2. 河南町北村(久米田付近)で発生した地すべりの上部。地すべりが発生した丘陵では、第三系からなる尾根の頂部を平らに削って水田が造られていた。



3. 河南町北村(旭山南方)における急斜面の崩壊。民家前の道路部分が写真右下に滑り落ちている。



4. 河南町北村(高寺付近)における路面の亀裂と段差。道路造成時の盛土部分が陥没して生じたものと考えられる。



5. 河南町北村(久米田付近)の採土場の急崖に認められる斜面崩壊。丘陵の麓では中新統の志田層群三ツ谷層の粗粒砂岩が採土されてこうした急な斜面が形成されており、今回の地震で多くの場所で表層崩壊が発生した。



6. 矢本町矢本(鹿妻西方)の自然崩壊斜面で新たに発生した斜面崩壊(矢本町鹿妻)。崖直下の民家は危うく崩壊物の直撃をまぬがれた。中新統の“志田層群”根古層を構成する凝灰質砂岩が崩壊している。